



## 「こんなこと」「あんなこと」 2021年度を振り返る

### 居宅部門

### 2021年度の事業エリア制をふり返って

居宅部門で独自に取り組んでいる事業エリア制は、①事務所・職種を超えた緊密な連携、②地域貢献を念頭に置いた事務所主体運営、③組織マネジメントができる人材の育成の3つを目標に置き、市内を3つのエリア（ブロック）に分け2012年（試行期間含む）からスタートしました。

特に近年は、「中期経営計画」・居宅部門の「5か年計画」「年度事業方針」に則り、訪問介護、居宅介護支援の価値（専門性）をいかに伝えるか、厳しい人材不足の環境下でいかに働く人を確保するか、事務所間でいかに知恵を出し支援し合うか、制度改正、報酬改定などの外部環境変化に対しいかに順応し経営力を高めるかなどについて、様々な角度から現場レベルでの協議と経験共有ができたのではないかと考えています。ここでは、2021年度の南エリアの取組経過について簡単にふり返ります。

南エリア（南事務所・伏見事務所・山科事務所・醍醐事務所・東山事務所・夜間訪問介護ナイト南・訪看ばあとあず南で構成）

今年度のエリア会議は、コロナ禍で4月から2月までに、11回中8回がオンライン（Zoom）開催となり、例年に比べ事務所間の担当者同士の関わりが持ちにくい環境となりました。それでも、他のエリアと同様に、以下の3点の目標を掲げて、事業所間の事業運営上の課題の協議、経験交流、情報共有を図ってきました。

#### 【2021年度 南エリアの基本方針】

- 中重度ご利用者への対応強化
  - 訪問介護における身体介護ケースへの積極的な対応
  - 訪問介護における収益性の向上
  - 居宅介護支援における中重度ご利用者率…指標40%以上
- ＜具体的取組＞
  - ・「自立生活支援・重度化防止のための見守りの支援」推進の継続
  - ・ノーリフティングケアの推進
- リスク管理の徹底
  - 事故予防策を徹底し事故発生件数の減少…前年度比率2割削減
  - 新型コロナウイルス感染症対策の徹底…従業員の安全衛生管理体制の確立
  - 防災に関する取組の強化
- 外部発信の強化
  - 事務所・事業所の存在感を示すための地域への発信・営業広報の充実

エリア制は複数の事務所から介護職、相談職、事務職、管理職と多くの職種が合同で協議する場であり、他の職種の理解、チームとしての効果的なアプローチ、知恵の交流が特徴で利点なのですが、残念ながら、コロナ禍によりその特徴をなかなか活かし切れていない状況が継続しています。また、エリア内どこの事務所においてもコロナ感染者が相次いで発生しましたが、エリア会議においては事務所、各担当者の対応経過を確認しながら、経験によって得られたノウハウ、効果的な対処法、感染予防物品の過不足の確認・調整等を行い、コロナ禍による現場の異常事態をエリア内の事務所間の緊密な連携によって乗り切ることができました。次年度は、少しでも平常を取り戻し、安定したエリア運営ができることを願ってやみません。

## 児童館部門

## 2021年の“やったぜ!!”を紹介

**2021年度、長期化するコロナ禍でも、工夫して「楽しい!」を積み重ねてきました。それぞれの児童館からひとつずつ、トピックスをご紹介します!**

### 錦林児童館 ～OKAZAKIPARKSTAGE2021 に出演～

市民活動センターの声掛けで、日頃、活動を共にしている京都文教高等学校ダンス部とイベントに出演することになりました。先の見えない中、本当に出られるのか…と不安もありましたが、関わってくださる皆さんの前向きな姿勢に背中を押され準備を進めていきました。当日は、多くの観客に見守られ、久しぶりの大きなステージに立った子どもたちの表情は輝いていました。地域の方々支援のもと、コロナ禍において一つのことをやり遂げた子どもたちは、大きな達成感を得られたと思います。



### 明德児童館

#### ～プレママ・プレパパ ベビーマッサージ体験会～

生まれる前から児童館を知ってもらおう初の取組。助産師の指導のもと、先輩ママ親子の協力により、プレママ・パパがベビーマッサージや授乳を体験。先輩ママから子育ての経験談を聞き、イメージがふくらみ、夫婦のコミュニケーションも深まったよう。最後は先輩ママのピアノ生演奏で至福のひとつになりました。参加者は職員夫婦1組だけでしたが、取組の内容はGOOD!と確認でき、この取組を多くのプレママ・パパに「知ってほしい!参加してほしい!!」と意気込んでいます。



### 塔南の園児童館 ～子ども発案 レゴコンテスト～

小学生から「レゴブロックのコンテストをしたい」と声があったのは5月のこと。京都には緊急事態宣言が発令されており、学童クラブ以外の子どもたちは来館できない状況。しかし合言葉は、#しまっていてもしじょうかん。誰もが参加できるように家で作った作品を撮影してメールで受付も可にしました。レゴに限らず「ブロックならOK」と幅を広げた結果、幼児さんから中学生まで、力作揃い。選考は遊びを企画する小学生チーム「アソビピック委員会」が厳正に行いました!



最優秀賞の作はこちら!

### 修徳児童館 ～修徳児童館×だいまるきょうとつこがくえん「きょうとつこ えがお展」～

前下京区長がつなげてくれた修徳児童館と大丸京都店。昨年11月の「にじいろマルシェスペシャル」で大丸京都店のフードドライブへの取組を応援した経緯から、この写真展が実現しました。

B2F: ギャラリー厨房跡に集まった「笑顔」(修徳児童館の子どもや地域の方)が全館に波及したというイメージで、1階エントランス部分を中心とした天井のバナーやマネキン、ビジュアルプレゼンテーションスペースなど全館・各フロアの要所要所に笑顔の写真が散りばめられています。笑顔の持つパワーが地域コミュニティの場とのつながりを作り出す…そんな空間に是非いらしてください!!

## きょうとつこえがお展

～修徳児童館×だいまるきょうとつこがくえん～

3/2(水)～4/12(火) 大丸京都店にて

※会期は予告なく変更になる場合があります

「A smile calls smiles.」

きょうとつこたちの笑顔は  
きっとあなたを笑顔にする

## 施設部門

## これからのフクシを考える

何かできることはないかと常に考え行動する。これがこれからの福祉を考えることにつながります。今年度、施設で進みだしたことをご紹介します。

## ■スマートフォンの活用

高齢者福祉施設小川ではインカムとPHSの機能を一つの端末で行うことはできないかと検討しました。スマートフォンに、アプリを入れることで、ナースコール受信、見守りセンサー受信、インカム、記録転送など様々な機能を1台で賄える可能性を知り、2021年7月にスマートフォンを導入しました。導入するにあたり、先行導入されている伊勢田明星園に見学に行き、現場での使用方法の確認も行いました。

これまで情報共有するためには、記録に言葉で状況を残す、デジカメを用意し写真を撮るなど行ってきましたが、スマートフォンを導入したことで、その場で写真を撮り共有ができるようになりました。ご利用者のちょっとした表情の変化も写真に収めています。状況を視覚で確認できるため、職員によって解釈が違うということも少なくなり、特に事故検討時の再現が容易になりました。今後、インカム機能やチャット機能などのアプリを導入し、様々な機能を活用していくことで、職員の事務作業に費やす時間を減らし、今まで以上にご利用者とのかかわりを密にしていきます。



## ■実習生受け入れの現状とこれからについて

協会では各施設で、介護福祉士や社会福祉士、初任者研修（ヘルパー2級）等の養成研修受講生をはじめ、看護師、歯科衛生士、管理栄養士等を目指す学生など、様々な実習生を受け入れています。コロナ禍で、実習の延期や講義への振り替え、オンラインの対応等、学校によっても対応の仕方は多種多様です。また、福祉を学んでいない学生のインターンシップの希望も多くあり、今まで当たり前だった対面からオンラインへの選択肢も増えました。

協会では、実習指導ガイドラインに基づいた法人独自のマニュアルやプログラムを作成しており、新しいカリキュラムに変更された場合にはその都度、見直しを行ってきました。実習指導者が定期的集まる部会では、今年度、オンラインになっても、全施設で一定の質の実習・インターンシップが実施できるよう、情報共有を行いながら、プログラム作成を行っています。

コロナ禍では直接の介護や訪問など制限されることが多いのですが、双方の安全性に配慮しつつ、次世代を担う専門職の育成にもしっかりと取り組んでいきます。



## ■介護技術の向上に向けて

今年度10月から、人材開発部の神内研修担当部長が精力的に各施設を訪問し、施設の機能訓練指導員と交流を深めています。この取組は、知識、経験が豊富な神内部長からスーパーバイズを得ることを目的にしていますが、引き出しの多さには毎回感動しています。

訪問時の介護職員へのアドバイスでは、身体の確認するポイントも伝えられ、職員の学びが深まる場面もありました。機能訓練指導員はもちろん、介護職がスキルアップすることで、ご利用者と職員の双方に負担が少ない、そんな側面的支援となることが狙いです。

まだゆっくりと土壌を作り始めた段階ですが、次年度はその土壌に芽が出て、花が咲き始め、成果が実るよう、継続していきたいと思えます。



西院デイサービスセンター見学

西院老人 DSC 職員／厚労省「認知症希望大使」  
下坂厚の写真日記 ③



職場リレー  
エッセイ⑤

THEME／春が来た  
明德児童館

隔月で、協会職員の下坂厚さんが自ら撮って選んだ、お勤めの写真をご紹介します。素敵な写真を愉しんでください。



春の訪れを教えてくれる「春告魚（はるつげうお）」の代表、赤メバル。魚屋で働いていた頃が懐かしい（笑）



岡崎公園で毎月開催される『平安蚤の市』古道具や西洋アンティーク、骨董品や昭和レトロな雑貨と出会えて楽しいです。



散歩中に出会った、どん兵衛のカップ型タイプのペットハウスに入ったネコが可愛すぎて！1枚撮りました（笑）

岩倉地域包括支援センターでは、認知症の高齢者と地域を繋げる農園活動をされています。「子どもたちのパワーを！」と、明德児童館にも声をかけていただき、幼児クラブでさつまいもを育てたり、3年生が大根を抜いたり、認知症の高齢者の方が収穫した野菜を児童館で販売する「マルシェ」（アソシエ NO5、2020.9）など、交流を深めています。

今春は「児童館でじゃがいもを植えませんか？」とお誘いいただき、センターの職員と地域の方が、子どもたちのために土を耕し、肥料を入れ、畝を作ってくださいました。毎日の世話は高齢者の方々がしてくださり、子どもたちは、植え付けと収穫だけを行い「負んぶに抱っこ」です。



2月26日（土）に、高齢者に植え方を教えてもらいながら、乳幼児親子と小学生が種芋 200 個を植えました。子どもたちは「こんないっぱいのじゃがいも初めて見た」と大量の種芋にびっくり。地域の方が幼児さんに「ちゃんと植えられてよかったなあ」と優しく声をかけ、小学生にニコニコしながら手取り足取り植え方を教えてくださり、温かい交流が生まれていました。これから「春が来て」、芽が出て、葉が出て、花が咲きます。地域の方々子どもたちの間にもたくさんの花が咲くように取組を続けていきたいと思ひます。



いつも Associé を読んでいただきありがとうございます。  
2022 年度から隔月発行となります。次回は 5 月にお届け予定です。

